

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 不破高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年11月26日(火) 15:00~16:40
- 3 開催場所 不破高等学校ガイダンス室
- 4 参加者

会 長	竹内 治彦	岐阜協立大学教授(欠席)
副会長	和田 満	垂井町教育委員会教育長
委 員	渡邊 勝敏	関ヶ原町教育委員会教育長(欠席)
	林田 力	不破中学校校長
	岡野 道代	地域住民(宮代こども園園長)
	若山 隆史	垂井町議会議長(欠席)
	太田 佳祐	地域住民(垂井まちらボ)
	鉄井 宣人	NPO法人 泉京・垂井
	乾 豊	本校同窓会副会長
	鬼頭 千紘	本校PTA副会長(欠席)
学 校 側		
	早野 宏樹	校長
	北島 康隆	教頭
	北村 直也	事務長
	臼井 澄人	教務部長
	早野 賢謙	生徒支援部長
	伊藤 健一	進路支援部長

- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 授業見学(1・2年 探究活動)
 - (2) 本校の探究活動の取組について
 - (3) 外部評価アンケート結果の分析について
 - (4) スクールミッション(案)についての意見交換
 - (5) 意見交流

- 意見 1 : 校長をはじめ教職員が、生徒のために地域のために一生懸命取り組んでおり、地元にとって本校は、なくてはならない存在になっている。見学した探究活動も縦割りで活動しており、皆が意識をもって活動していた。総合的な探究の時間は、やりながらゴールを見つけていくのが大切である。スクールミッションに「主体性」を入れてはどうか。
- 意見 2 : 探究活動について、それぞれの講座の意図が見て取れ、教職員と生徒の距離が縮まり、生徒同士も絆が深まっていく活動であった。スクールミッションにある「地域連携」についても、地域密着というところが本校にはよく当てはまってよい。
- 意見 3 : 各講座が教職員の得意分野や興味のあることなので、それが魅力になっていると感じた。面白そうな講座が沢山あり、興味を持ったことに対して、それをきっかけにして、今後に繋がっていけばよい。スクールミッションについては、「地域」や「一人一人」を大切にすワードがあり、本校らしいスクールミッションになっている。
- 意見 4 : 講師側からの意見だが、探究活動では、どの分野でも興味のあることを深掘りし、将来に活かしてもらいたい。単なる授業の一環ではなく、学びから実践に繋がり、生徒が学校外に出て、街を作っていく様な仕組みを作っていけたらよい。スクールミッションの「地域社会の創り手を育成する」については、本当に街の創り手を本校から育ててほしい。
- 意見 5 : ゴールを設定していないというのは、探究学習としてよいと思う反面、生徒や教職員自身の振り返りや、来年度に向けてのまとめをどの様に行うのが気になった。振り返りが次年度に向けての活動に繋がり、それが生徒自身の自己肯定感や高揚感にも繋がる。スクールミッションについては、地域の方から見ても本校に求めている姿が表されていてよい。
- 意見 6 : 探究活動では、教職員と生徒達のコミュニケーションが取れており、楽しく授業が出来ていてよい。今後も生徒達の意見を聞きながら、生徒達が何を考えているのかを把握してほしい。また、生徒達には色々な社会勉強をしてもらい、本校に入学してよかったと思えるような生活をしてほしい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、授業（探究活動）や本校の取組みを公開し、委員から意見等を得た。また、本校のスクールミッション案について承認が得られた。今後も、可能な限り本校の取組みを公開し、委員から更なる意見等を得たい。